

# 信州昆虫資料館報 No.18



令和4年4月1日発行 信州昆虫資料館 〒386-1601 長野県小県郡青木村田沢1875-6 ☎ 0268-37-3988 ・ fax 37-3964  
開館期間：4月中旬～11月下旬 開館時間：10:00～17:00 (11月は16:00まで) 火曜休館/入館料：高校生以上300円・中学生以下無料  
青木村役場 商工観光移住課 ☎ 0268-49-1011

4月16日(土) 10時 開館

本年もどうぞよろしくお祈りします

企画は新型コロナウイルス状況により中止もあります

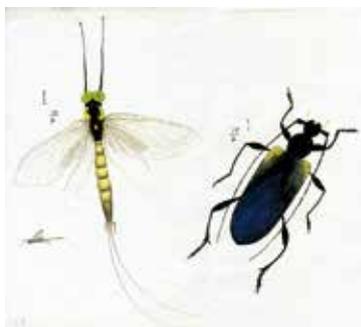
## 本年のスケジュール

4月16日(土)～8月28日(日) やまだ やすし だい むし 山田 靖 & 大むし虫展 !!

「だいすきな虫」たちを描きながら暮らした山田靖さんの絵とみなさまの「だいすきな虫」の作品をいっしょに飾るユニークな展覧会です！自由にイメージしてください



子どもさんの絵



山田靖さんの絵

～みなさんの作品を募集します～

募集期間・搬入可能期間：4月10日(日)～7月31日(日) 火曜休館

募集人数：30名 募集対象：幼児～大人 1人2作品まで

サイズ：額装・マットに貼るなどしてA3程度

立体は30×30cm程度まで

(野外作品の大きさはご自由ですが、雨風等による破損、盗難の補償はできません。ご了承ください)

お問合せの上作品をご持参ください 順次展示します

搬出：8月28日(日) 16時～17時

展示場所：当館玄関・ロビー・2階展示室・

多目的ホール他全館壁面・野外など

●虫をテーマにした作品(絵・写真・工作・立体・研究発表など)をお持ちください全館を使い展示します  
最終日には出展者のお話を聞く会を開きます

8月28日(日) 13時半～16時

出展者によるギャラリートーク

やまだ やすし  
山田 靖：(大正7年山口県周東町(現在の山口県岩国市周東町)生まれ)第2次世界大戦後復員したのち、農業で生計を立てる傍ら身近な昆虫の絵を描き続け、平成6年に自宅前に私設で小さな「昆虫美術館」を開館。高齢となり多くの作品の行方を案じていたが、平成18年に訪ねた当館が、劣化した作品を補修したことが縁で平成19年、当館に原画を寄贈。同年、館内に常設展示室が完成。平成22年、92歳で永眠。虫たちに向けた慈愛に作品を多くの来館者にご覧いただいている。

6月19日(日) 10時～15時 風穴ハイキングと朗読会

募集人数：25名(老若男女どなたでも)

要予約：6月12日(日)まで 少雨決行：雨天時は当館ロビーで朗読会

集合：10時 道の駅あおきぶらっと家<sup>ホーム</sup>

(子檀嶺岳麓まで車に乗り合わせ)

参加料：大人500円 中学生以下100円(入館料・保険料)

講師：塚原吉政さん(上田地球を楽しむ会事務局長)

朗読：GOKUさん(詩人・朗読家)

風穴や蚕、虫をテーマにした詩人の朗読に耳を傾けます

持ち物：飲み物・昼食など

服装：長そで長ズボン・帽子・トレッキングシューズなど山歩きの出来る服装



●大正時代に蚕種(蚕の卵)貯蔵庫として使用されていた天然の冷蔵庫「村松の風穴」(子檀嶺岳中腹約900m)を見学し、詩人の語る風穴の由来など、朗読に耳を傾けます 道中、岩石・虫・植物などを学びます 「村松の風穴」は平成14年に村史跡文化財に指定されています

■講師紹介：塚原吉政さん：地球上のさまざまなことに関心を持ち、観察、調査・研究・発信をしている。当館の風穴ハイキングでは平成25年から講師をお願いしている

■GOKUさん：平成15年から自作詩の朗読を始め平成17年に「詩のボクシング全国大会」で準チャンピオンに「場所・ジャンルにこだわらないこと」にこだわりつつ、自作詩をはじめ絵本や小説や漫画などさまざまな作品を「声」にする活動を展開している

※6月初め～1ヶ月、恒例の蚕の飼育の予定です。

※7月中旬に、飼育した繭で座繰機を使って生糸を採ります

7月16日(土)・8月11日(祝) 19時入館～22時

★真夏の夜の夢★

楽しい夜間昆虫観察会

募集人数：両日ともに30名

要予約：1週間前まで ※少雨決行 雨天中止

場 所：当館入口（ライトトラップを行います）

参加料：500円（入館料+保険代） 中学生以下100円（保険代）

講 師：日本昆虫協会長野支部の皆さん他

持ち物：飲み物（販売機 売店なし）

懐中電灯・捕虫網・カメラ など

服 装：長そで・長ズボン



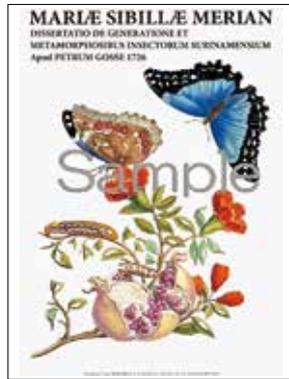
ライトトラップは野外劇場のよう

9月4日(日)～11月27日(日)

女流博物学者 メーリアンの世界展

植物や昆虫などを緻密な観察眼と描写力で描いた画家マリア・ジビーラ・メーリアンの作品とコラボレーションした新部公亮さんの昆虫標本の展示

会 場：当館2F展示室他



マリア・ジビーラ・メーリアン

(Anna Maria Sibylla Merian 1647年～1717年ドイツ生まれ)

植物や昆虫などを詳細に描いた銅版画で知られる画家で博物学者でもある。蝶や蛾の変態を緻密な観察眼と描写力で描き、芸術家としての名声に加え昆虫学に多大な貢献をもたらした人物として高く評価されている。また、その業績をほぼ独学で成し遂げた点から自立した女性の代表格としてみなされることもある。

1699年から2年間、当時オランダ領だった南米スリナムに渡り、1705年には60点余りの大型図版に解説を添えた集大成「スリナム産昆虫変態図譜」を出版。約300年経過した現在でもこれを越える昆虫図譜は出ていない。

10月予定（日程が決まり次第広報します）

新部さんのギャラリートークと楽しいステージ

新部さんが語るメーリアンの世界をお楽しみに!!

募集人数：30名 要予約

場 所：当館ロビー

参 加 料：入館料300円 中学生以下無料

新部公亮

(栃木県立図書館勤務・日本アンリ・ファーブル会正会員)

多様性に基づく人文科学的昆虫展の全国展開をライフワークとしている。当館では「ヘルマンヘッセ昆虫展」「ことわざと格言の中の昆虫たち展」「どくとるマンボウ昆虫展」「神話と星座と虫の名と展」、「ゼフィルス展」「多様性の星・地球甲虫（ビートルズ）展」など。今回は、偉大な存在であるドイツの女流博物学者に迫る。著書に「抱きしめられた標本箱」「バルナシウスは天に舞う」（エムティ出版）



新部さん講演会



各季節の森の中や、山を散策されるのはご自由ですので、森林浴や自然観察を兼ねて歩きましょう!!



キアゲハ（写真）

## 令和3年（2021）を振り返って

### 1月 昆虫食体験イベント「信州人虫を食べる」

は大人気でしたが、残念ながら新型コロナ蔓延防止時期となり中止になりました



オオムラサキ孵化



オオムラサキ羽化



みんなで作った鳥よけをエノキの木に飾る



カブト虫 (2歳児)



ミヤマクワガタ (山田靖)

### 4月17日(日) 10時開館

#### 多様性の星 地球甲虫展

4月17日～7月25日 (9月末まで好評につき延長)

#### 7月25日 ギャラリートーク 新部公亮さん

伝説のロックバンドThe Beatlesと、甲虫Beetlesを絡めたユニークな展示会は、虫ファンも音楽ファンも、ビートルズを知らない若い世代も一緒に楽しみました。7月25日は新部さんによる、詳しい虫と音楽の話をいただき、語りやビートルズの歌もあり、和やかな雰囲気となりました。



ザ・ビートルズのレコードジャケットに甲虫がたくさん！



イメージが流れる展示室

### 6月中

恒例の「蚕の飼育」NHK大河ドラマ、渋沢栄一の「青天を衝け」が放映されており、幕末から明治の日本の状況や養蚕大国として経済の発展を促した時代に、多くの人々が目を向ける年で、蚕に興味を持つ方も増えました。蚕の成長と、庭先のエノキで変態するオオムラサキの観察が同時にできました。

### 7月17日(日) 13時半～15時半

#### ランプシェードを作ってみよう！

本年も座繰り体験と写真館内の蚕コーナーとランプシェード作りを開催しました。

小諸市・上田市・千曲市・小川村・青木村より10名様限定でしたが、全員初参加の30代～70代の女性たち。和やかに楽しい時間を過ごしました。



昭和初期の座繰り機で

### 8月11日

夜間昆虫観察会は中止になりましたが、自分でたくさん飼育したので、珍しい外国のクワガタムシ、日本のカブトムシを持参された方がいました。夏休みの子供たちで、飼育したい！というご家族に、プレゼントできました。

### 10月1日～11月30日 収蔵本展

日ごろ、なかなか手に取って試みる事の出来ない古い書籍や昆虫雑誌などを展示しました。

「新しい本や冊子類はネット検索して見る事が出来るが、古いガリ版刷りのようなものはもう、見る事ができないとても貴重なものがここにはありますね」と、遠方から訪ねてくださる方々もおられました。

紙類は待たなして劣化に拍車がかかるため、これからはデジタル化の時代ですね。

#### 「人生と昆虫」の見開き



収蔵本展

## 11月

### 生きものが大好きで、長年「カイコの研究」をしてきた 武田知也さんの成果!

佐久市教育会主催の佐久科学作品展に連続出品し、令和2年「カイコの研究」、3年「カイコの研究No.2」共に奨励賞をいただいた!!と見せにきてくれた。何時間でも野原を駆け回り、小さな虫や水の中の生きものたちと話している姿も、支える両親も素晴らしい!(卵は当館からのもの)



カイコの研究 武田知也さん

## 12月

標本箱のガラス面を外して、防虫防カビ剤を交換する

## 思い出コーナー



故小川原辰雄先生ハチ講座の様子

名誉館長 故小川原辰雄先生が他界されて、まる3年が経ちました。

「誕生日が2月18日だからそれまでは!」とご本人もがんばりましたが、静かに旅立たれました。

(令和元年2月5日逝去)

前年、村の文化会館大ホール

で最後のハチの講演会を開催された先生は「もう一度ハチの本を山溪さんから出したい」という一念で、資料やこれまでの発行本を(株)山と溪谷社さんに送りました。首を長くしてひたすら待っている姿。が、ある日山と溪谷社さんから一本の電話が入り編集者の方がお見えになることに。「先生、連絡が来ましたよ!よかったね~!!」。「本当かい!嘘じゃないだろうな」と目をまん丸くして子供のような顔をしていたのを思い出します。

「人を襲うハチ-4482の事例からの報告-小川原辰雄」山と溪谷社・全国の書店・アマゾンなどでお求めください)

## 森に遊ぼう

当館が村の文化施設になって(平成29年4月)からまる5年が経過しました。周囲の森の小径は、以前マレットゴルフのルートだったところをそのまま遊歩道にしており、観察会



子壇嶺岳頂上が目の前

や個別の散歩をお薦めしています。春夏秋、足下の地中から見上げる梢の先々まで、さらに宇宙に至る大気を感じながら大人も子どもたちも五感六感フル活用の散歩を愉しめます。小径は十観山のトレッキングコースにもつながっており、風をはらんだパラグライダーが鳥のように舞う姿も見られます。また、近くに村営の横手キャンプ場もあり、ゆっくり遊べます。



春 蘭

## 後 記

世の中も地球も悲鳴を挙げ、さまざまな大人たちが踏ん張って人類の生き残りを目指す中、新型コロナウイルス感染症と見えない脅威が拡がるばかり。命の重さについて尊厳について、敬意を払う余裕もなく、一目会うも許されず旅立っていくというあり得ない現状。CO2排出量も一向に改善されず、気候変動対策も間に合うのだろうか。海に棲む、山に棲む、街に棲む動物たちの体の中にはびこるプラスチック粒の映像に、暗澹たる気持ちで見上げればここはまだ光る青空が拡がって、季節ごとに緑が葉を広げ花が咲きチョウが舞い鳥が梢を揺らしている。森を抜ける風の歌も変わりなく、子どもらは歓声を上げて走り回り、目を細めている若い親の姿も微笑ましい。(HEAR NOW !!) このあたりまえの風情を永遠にするために、地球上の大人たちがやらねばならないことはたくさんある。令和3年は大きな行事をいくつも中止になる中、「多様性の星☆地球甲虫(ビートルズ)展」と「収蔵本展」を開催できたことは、本当に幸運だった。当館内外の環境を多くの人に楽しんでいただければと願いながら、春の開館になる。(2.20 記)



オオムラサキ越冬幼虫